



令和 4 年 6 月 発行
第 34 号

リフレここのえ
6 歳 女児 作

「成長の証」

理事長 村松 満

「八栄の皆様伝えたいことがあります。それは、常に前を向いて、ポジティブに生活してほしいということです。僕はいつも、ネガティブな考えになったり、周りの子と比べてました（まま）。でもそれは、かえって自分を不幸せにしています。周りの子にはできて、自分にできないこと。それは沢山あります。ここで暮らしていくには避けられない事でもあります。生活していく上で良いところを探してください！思ったより沢山あると思います。」

これは、5 歳から 18 歳までの 13 年間に八栄寮で過ごし、今年の 3 月、晴れて就職内定を得て、退寮していった寮生の言葉です。毎年この時期には、幾人かの子どもたちが退寮し、その門出を祝って作成される「あしあと」という小冊子の中の一節です。やや長い引用になりましたが、とても印象的で、心を打つ内容なので、あえてここに紹介させていただきました。私たち児童福祉施設の運営に関わる者にとって、何が大切かということを改めて思い起こさせてくれるような言葉です。

「全て児童は・・・、その心身の健やかな成長及び発達並びにその自立が図られること・・・を等しく保障される権利を有する。」

言うまでもなく、児童福祉法第 1 条に掲げられた児童福祉第一の理念ですが、これをどう実践していくか、日々格闘している職員にとって、こうした退寮生の言葉は、何物にも代えがたい嬉しい贈り物ではないかと推察します。現場で子どもたちと対する際には、こういう場合はどう接するべきか。自分の思いが果たして子どもに受け止められているのだろうか、それが本当に子どもたちのためになっているのだろうか等々、おそらく常に考え、悩む毎日だと思います。子どもたちの成長、発達、自立。「言うは易く、行ふは難(かた)し」の典型でしょう。

そうした中であって、子どもたちが退寮していく際に発せられる言葉の数々は、私には心の底から湧き出る感謝のメッセージのように聞こえます。私自身、退寮時の門出の会に参加させてもらいますが、いつも心を揺さぶられます。上に掲げた退寮生の言葉は、これまでの一人一人の子どもたちへの接し方が、決して間違っていなかったことを証明してくれている。そんな思いを実感させる瞬間でもあります。

引用文に戻ると、その結びには、「僕はそれにこの年になるまで全然気づけなかったです。・・・僕はひと足先に社会人になります。みんなが立派な大人になることを願っています。」と、年長者らしく、残る下級生の仲間たちにも思いを馳せ、エールを送っています。

これを成長と言わず何というのか、他に言葉はありません。

私が見た子どもたちの成長

こどものうち八栄寮 施設長 大村 正樹



私が入職したのは、今からもう 20 年以上前のことだ。そのころ、子どもたちはとても荒れていた。

学校に連日遅刻する中学生、深夜遅く帰宅する女子高生、怪我をさせたお友達宅への謝罪の訪問、親を探して無断外泊をする子どもの搜索、何かと職員に反発をする子ども。毎日が戦争のようだった。

そんな子どもたちに対して、腹がたったり、何を考えているのかと疑問をもったりすることも多かった。しかし気を取り直し、子どもたちに関わっていた。

すると、最初は反抗的だった子どもがそんなある日、子どもたちの洗濯物を干していると、不思議なもので今まで、反抗的なことばかり言っていた子どもが小さな声で「ありがとう」と言った。

この仕事やっていてよかった、そして、いつの間にか感謝の気持ちを言葉にできるようになったんだと、私は喜びを隠せなかった。

そんな子どももいつかは施設を巣立ち、社会の中に入っていく。

社会になじめず、何度も転職を繰り返す子ども、連絡がつかなくなる子どももいた。一方で、いろいろな失敗を繰り返しながらも、何とか持ちこたえ、結婚をし、家族を持つ子どももいた。

あるとき、子育て中の退寮した子どもから電話がかかってきた。約 30 分、子育ての大変さや楽しさを語っていた。電話を切るとき、「久しぶりに話できてよかった、話を聞いてくれてありがとう」と言った。問題ばかり起こしていた子どもが、一生懸命に子育てをしている、あの子がねえ、と感慨深い思いに駆られながら、受話器を置いた。

子どもを養育する仕事は、苦労ばかりが多く、成果がみえないことが多い。しかし、子どもの成長の瞬間に立ち会えた時、今までの苦労はどこかに消えていく。その瞬間に若い職員の方たちが立ち会えることを願いながら、今私は、日々仕事をしている。

グループホーム「宇宙の家」

宇宙の家を大家さんに建て替えて頂きました。「新築に住むなんて一生にあるかないかじゃん！」と目をキラキラさせていた高校 2 年生の C ちゃん。6 人の子どもたちと職員、感謝して大切にに使わせて頂きます。



子どもの成長を見つめて

こどものうち八栄寮 ケアワーカー 佐藤美侑

日々の暮らしの中で子どもたちはあっという間に成長をしていく。昨年度初めて子どもの洋服や靴を買う担当となったが、一つ季節を過ぎるだけで洋服、靴のサイズを見直す必要があるほど子どもの成長のスピードに驚きを感じた。身体的な成長だけではなく、なかなか跳べなかった縄跳びが跳べるようになったり、シャツをしっかりとしまえるようになったり、自分の気持ちを言葉に出来るようになったりなど、出来ることがどんどん増えていくことの成長も身近で感じることができる。これらの成長は子どもたちと密に関わり、共に生活している児童養護施設の職員だからこそ気付くことが出来るのだと感じ、この仕事について良かったなと心から思うようになった。これが何年、何十年と続き、ずっと見てきた子どもたちが退寮するとき、身体も心も成長した姿を見られることがこの仕事のやりがいなのだろうと感じる。



入職して3年、がむしゃらに頑張っていた1.2年目とは違い、子どもたちの細かな成長にまで目を向けられるようになってきた。日に日に成長していく子どもたちの姿を見逃さない様、子どもと同じ方向を向いて一緒に成長していくことが出来る職員を目指していきたい。

1年間共にして成長したこと

こどものうち八栄寮 ケアワーカー 石原誉士



私が八栄寮に入職してから4年の月日が経ち、沢山の子どもたちと接してきました。その中で印象に残っている子どもたちの成長について記していきたいと思います。

私が3年目に担当した当時小学3年生のT君です。T君は4月に入所以降落ち着きがない姿が目立っていることが印象的でした。児童養護施設に入所する児童は環境に慣れるまでに時間を要する子もいます。当時同部屋だった高校生にちょっかいをかけたり、勢い余って物を壊したり等が見られたT君ですが、その時によく注意や叱っていたのが私でした。T君に掛けた言葉は、人は失敗するからその後頑張ることが大切であること、叱るのはその子が嫌いだからやっているのではなく、将来〇〇みたいになってほしいという願いがあるから叱っていることをよく伝えていました。T君とは1年の付き合いでしたが、その後の1年でとても落ち着き、成長している姿を傍で見ることができたのは嬉しく思いました。T君は昨年度で退寮しましたが、退寮前に話をした時には「あの時沢山怒られたけど、言われたことは響いているよ」と笑顔で言ってくれて、T君なりに意識して頑張っていたことを知ることができた時はとても嬉しい瞬間でした。

私にとって子どもたちの成長は月日をかけて知ることが多く、T君のことは2年経ってから分かりました。今後も子どもたちの成長を見届けながら充実した日々を過ごせるよう精進して参りたいと思います。



心の成長

こどものうち八栄寮 主任 大石佳奈

ケアワーカーとして働き、担当していた子どもたちが施設を巣立っていく姿を見送ってきました。“血縁関係がないのだから関係ない・八栄を出たら自由になる・どうせ仕事だから言ってるだけでしょ”と思春期真っ只中の子どもとは何かある度にそんな言葉のぶつかり合いの日々。子どもの心が傷ついている分、私たちも傷つき涙を流すことも沢山あります。それでもここまで仕事を続けることが出来たのは何よりも子どもの心の成長に触れられるからです。自分の感情を知り、次に周囲の感情を知り、そして人の優しさに触れ、自分自身は大切に想われているのだと子どもの心に響いた時から見せる子どもの成長は、それまでのどんな苦しさや辛さであっても笑い話、思い出話になってしまうくらいのもとなります。それは子どもたちが施設を巣立ってから変わらず関係は続きます。子どもが大人になっていく過程でさらに社会という厳しい現実を知り、それまでの守られてきた環



境や愛情を体感することでより心が豊かになり思春期に浴びせる言葉とは真逆の言葉で私たち職員の心を豊かにしてくれます。担当した子はもう 20 歳～35 歳となり、いつ会っても昔と変わらない関係性とこちらを気遣う言葉をかけてくれるようになり、話す度に成長を感じます。子どもとの対峙に悩む時にはいつか訪れる彼女らの心の成長を待ち、見守る毎日です。そして成長に触れる度に仕事という言葉ではくれないこの仕事の大きさを感じています。

成長を見守って

こどものうち八栄寮 ソーシャルワーカー 内山 せかい

私は、ソーシャルワーカーとして八栄寮に勤めて今年で 11 年目になります。2 歳で入所した子も 6 年生になり、その成長は目を見張るばかりです。背比べをして、身長の高い私を超えていると、どの子も満面の笑みになって喜んでいきます。外見だけでなく心の成長も感じられると尚更嬉しく思います。「ありがとう」「せかいさんも気をつけてね」と他者を思いやる言葉が出た時には、あんなに小さかった子がこんな発言ができるようになったのだと密かに感動します。長年八栄寮に勤められたのは、やはり子ども達の成長を日々間近で感じられるからだと思っています。

私の主な仕事は、施設の子どもの親御さんやフレンドホームの方、児童相談所の児童福祉司への連絡・調整を行う役割ですが、その際できるだけ、子どもの成長や日々のエピソードを具体的に伝える様にしています。どの方も笑ったり喜んだりしてくださり、その姿もまた私の大きな喜びになっています。子どもの成長を見守り私たちと共に大切に育ててくださる皆様に、その子の成長を伝えていきたい、人と人を繋ぐ役目をしっかりと担っていきたいと思っています。





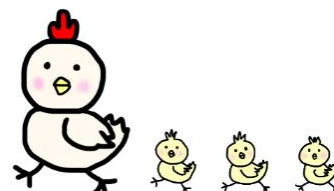
「失敗はない すべては経験です」

リフレここのえ 施設長 横井 義広

母子生活支援施設には、ご存じのように様々な理由で入所される方がいます。「夫などの暴力」の入所理由が 55.8%、「住宅事情」が 17.4%、「家庭環境の不適切」が 9.3%、「経済事情」が 9.1%、「その他」になっています（全国母子生活支援施設協議会 2021）。入所後 1 か月でお母さんの今まで生きてきた生き立ちを少し聞かせていただき、今後リフレでどのように生活をしていこうか、ということと一緒に考えていきます。お母さんの話を伺っていると、統計ではあらわれてこないご苦労が語られます。今話題になっている「ヤングケアラー」という状態になっていた過去をお持ちの方もいます。小さいころから、きょうだいの面倒をみていたとか、アルバイト代はあたりまえのように家族に渡して生活費にあてられていたなど。お母さん自身は比べるものがないので、一生懸命家族のために尽くすと、結果として学校から足が遠のき、勉強もわからなくなって不登校気味になっていってしまったということもあります。

最近では、若いお母さんが増えています。10代から30代までが全体の4分の3くらいを占めています。そして、前に述べたようにお母さん自身がきちんと自分の子ども時代をすごしていない人が多いのです。若くして子どもを授かり、一緒に生きていこうと気持ちでは思っているけど、同年代のように遊びたい気持ちもあるし、時には羽目も外したいと思う時もあると思います。だから、時々遅く帰ってきたり、まれに無断で外泊してしまうことや、お金を使いすぎてしまうこともあります。今までそういった生活の「いろは」についてをだれも教えてくれなかったし、やったこともなかったかもしれません。そういう場面に出会うと私たちは、丁寧に話をしたり、時には真剣に話をします。そういう時に私たちは、「失敗はありません。すべては経験です」とお母さんに語りかけます。何回も繰り返すお母さんに出会うと、私たちの忍耐が試されていると思う時もあります。

入所時、中・高生かと見間違えるようなお母さんが、通信制高校に入学して職員と共にレポートの課題に取り組み苦労して卒業し、毎月お金がないと泣きついていたお母さんが、「こんなに貯まったよ！私の人生で初めて貯金した」と話してくるお母さんもいます。表情に自信がついてきます。私たちは時々、「課題を持ったお母さん」という表現をすることがあります。しかし、これは正しい表現ではないと思っています。私たちのお母さんへの支援は、お母さん自身の本来持っている潜在的な力を引き出したり、時には現実にはきちんと直面することで「成長・変化」を促すいとなみではないかと考えています。



【各施設 在籍者数】（令和4年4月末現在）

こどものうち八栄寮 幼児 10名 小学生 12名 中学生 15名 高校生他 11名 【計 48名】	リフレここのえ 乳幼児 12名 小学生 11名 中高生 1名 専門 0名 【計 15世帯 39名】	八王子市子ども家庭サービス事業利用者数 令和3年12月～令和4年4月末 ショートステイ 171名 トワイライトステイ 75名 合計 246名
--	---	--

課題を課題として認識する力

リフレここのえ 少年指導員 星野 大河

子どもが成長するには、どんな力が必要でしょうか？私は入職してからの一年で「課題を課題として認識する力」だとある子に教えて貰いました。

「ただいま！」「おかえり、今日の宿題は？」「わかんない！」「先生はなんて話した？」「知らない！」その子が入所した当時こんな会話が普通でした。その子は《宿題をやる》ことの前に、《宿題は何か把握する》《持って帰ってくる》ことすらままならない状態でした。そこで、私は「今日は宿題持ってきた？」「忘れ物ない？」とその子が帰所する度声を掛け続けました。すると次第に自ら「今日は忘れ物ないんだよ！」や「あれ？宿題のプリントここにいたはずなのに…」と話すようになりました。忘れ物がない日は大いに褒め、あった日は一緒に落ち込みました。きっと大人に声を掛けられることで「宿題は持って帰らなければならないもの」という認識を身に付けられたのだと思います。これはまだ第一歩に過ぎないのですが、この積み重ねが「成長」に繋がると私は考えます。



リフレここのえのスライドショー

リフレここのえ 母子支援員 後藤 愛香

リフレここのえでは毎年 12 月にクリスマス会を実施しています。会の最後には毎年恒例となっているスライドショーをみんなで鑑賞します。1 年間撮り貯めた利用者さんの写真が次々と流れてきます。一番多く聞こえる声は「わー、こんなに小さかったんだね！」です。まだ寝返りも出来なかった乳児さんがスライドショーの後半になると立って歩いている写真が流れてきます。そんな写真を見ると確実に逞しく成長しているのだと感動します。せわしく過ぎていく日常では感じるものの出来ない瞬間です。小学生のキャンプの写真では子どもたちの弾けるような笑顔が写しだされ会場は笑いに包まれます。何よりも元気に健やかに育っている姿に心打たれます。ママたちの表情も一年を通して明るく朗らかになっているのが分かります。子どもたちが子どもらしく成長しているのは日々のママの頑張りがあってこそです。そのためスライドショーの最後には「1 年間おつかれさまでした」とママたちへメッセージが流れて終わります。毎年涙なしでは見られないくらい感動するリフレここのえのスライドショーが大好きです。今年度も素晴らしい締めくくりが出来るように毎日頑張っていきたいと思います。



こんなに大きくなりました！！



行事報告

無料塾オリーブ八王子では高校進学のお祝いとして、高尾スターレーンに行ってきました。



コーナーストーン様からお祝いとして素敵なスマートウォッチを頂きました。



秘技シンクロ投げ!



オリーブの樹の前でも一枚。

※プライバシー保護の為、写真を修正しています

夢にむかって

無料塾オリーブ八王子 塾長 坂本一人

リフレここのえのアフターケア世帯を対象としている無料塾オリーブ八王子は今年で8年目となり、小学生5人、中学生17人、高校生合計23人が在籍しています。(令和4年4月現在)

学習中は学校の課題や興味のある教科の予習・復習、都立高校入試の過去問等、それぞれ学習内容は違いますが、お互いに励まし合いながら取り組んでいます。同じ場所で育ったという意識があるからか、塾生同士の連帯感が強く、高校生が中学生に勉強を教えてあげることもあります。仲間や職員に会いに来るのを楽しみにしており、勉強が苦手な子にとっても自分の居場所となっているようです。

休憩時間にみんなで食べるおにぎりが目当てで入塾した子も、いつの間にか中学生になり、すぐに受験を迎えます。今年度は7人が新高校生、専門学生1名、大学生1名になりました。リフレここのえに来た時はまだ保育園児で、エントランスでカエルの真似をして飛び跳ねている子がいました。そんな元気いっぱいだった子もやがて

オリーブ八王子へ入塾、高校卒業後、この4月からは専門学校生になります。子どもたちの成長の早さに驚かされると共に、夢に向かってひたむきに努力する姿には心を打たれます。子どもたちが自分の夢を見つけ、少しでも夢に近づけるように、今後もサポートしていきます。



休憩時間の手作りおにぎりでは、特に焼鮭(カマ)と焼きおにぎりが人気です

資金収支決算書 令和3年度 社会福祉法人同胞援護婦人連盟

単位：千円

勘定科目			本部	こどもの うち 八栄寮	リフレ ここのえ	子ども 家庭 サービス	内部 取引	合計
事業活動による収支	収入	児童福祉事業収入	9,233	368,634	122,062	11,070		511,000
		経常経費寄附金収入	2,107	1,207	0	0		3,314
		受取利息配当金収入	35	8	34	0		77
		その他の収入	1,913	7,342	18	1		9,274
	支出	人件費支出	7,338	231,563	67,157	8,709		314,767
		事業費支出	582	57,598	5,950	984		65,115
		事務費支出	7,914	22,225	13,159	1,088		44,386
		その他の支出	0	2,800	0	0		2,800
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	0	0	44,286	0		44,286
		その他の施設整備等による収入	0	660	0	0		660
	支出	固定資産取得支出	0	5,132	62,073	0		67,205
		ファイナンス・リース債務の 返済支出	0	0	190	0		190
		その他の施設整備等による支出	0	990	0	0		990
その他の活動による 収支	収入	積立資産取崩収入	0	3,608	18,000	0		21,608
		拠点区分間繰入金収入	10,381	0	0	0	- 10,381	0
	支出	積立資産支出	0	59,556	26,736	0		86,293
		拠点区分間繰入金支出	0	5,191	5,191	0	- 10,381	0
当期資金収支差額合計			7,835	- 3,594	3,944	289		8,474
前期末支払資金残高			187,960	114,109	32,384	815		335,267
当期末支払資金残高			195,795	110,515	36,328	1,104		343,742

※千円未満を四捨五入しているため合計数が合わない場合があります

～ご寄付のお願い～

- 1 郵便振替 : 社会福祉法人同胞援護婦人連盟 00110-1-499359
 2 ゆうちょ銀行 : 社会福祉法人同胞援護婦人連盟 019店 当座 0499359

- ・折り返し当法人からの領収書をお送りします。
- ・社会福祉法人に対するご寄附は確定申告で所得控除の対象になります。
- ・住民税控除についてはお住まいの区市町村へお問い合わせください。

社会福祉法人同胞援護婦人連盟 児童養護施設 こどものうち八栄寮 母子生活支援施設 リフレここのえ 八王子市 子ども家庭サービス事業 〒193-0944 東京都八王子市館町 2232-1 Tel:042-661-5891 Fax:042-667-0006 http://www.doenfujin.jp	編集後記 今号のテーマは、「成長」です。 職員は利用者の成長を間近に見られることで、彼らと一緒に成長できる機会を与えてもらっていることが、寄せられた原稿から知ることが出来ました。 より大きく成長できる一年となるように邁進していこうと思います。 【広報誌担当 鈴木奈津実・馬淵将吾・後藤愛香】
--	---

ご意見・ご感想・ご質問を法人宛のお手紙または FAX でぜひお寄せ下さい。お待ちしております。